

職員研修・職員会議録

施設長	課長	係長	主任	担当

- ①会議名 地域連携推進会議 報告書（施設入所支援）
- ②日程 12月20日（土）11時30分～13時30分
- ③参加者 利用者1名、保護者1名、地域関係者2名、職員2名
- ④議題 地域連携推進会議について
- ⑤内容

あおばの杜職員から、あおばの杜の概要と歴史について説明しました。1978年に設立され、45年以上の歴史があります。当時は「就学免除」と言われ、障害のある人を社会から排除する意味合いがありました。義務教育後に行き場がない障害者のために、利用者家族が立ち上がり、ダウン症親の会、自閉症親の会、育成会の家族が県庁や国にも足を運び、徳島県の土地を無償で提供してもらい、保護者が自分たちでお金を出し合って建てた徳島県で初の通所更生施設があおばの杜となっています。昔は「おおぎ青葉学園」という名前でしたが、平成19年10月より「あおばの杜」と改称されています。

あおばの杜を利用している方は主に知的障害の方で、自閉症、ダウン症、強度行動障害、身体障害（肢体不自由、視覚障害）、精神障害（統合失調症、気分障害）などの方がいます。令和7年11月現在、日中サービスでは生活介護が69名、就労継続支援B型が13名、放課後等デイサービスが17名、夜間サービスでは施設入所支援が35名、共同生活援助が6名となっています。

職員から、自閉症、ダウン症、発達障害、てんかん、強度行動障害などの特性について詳しく説明しました。自閉症は生まれつきの脳機能の偏りによって対人関係やコミュニケーションに困難を抱え、特定の物事への強いこだわりや感覚の過敏さ、反復行動などの特徴があります。ダウン症は21番目の染色体が通常より1本多いことによって起こる染色体異常症で、知的障害や特徴的な顔つき、低身長といった身体的特徴が見られます。強度行動障害は日常生活において他者や自身に対する攻撃的・自己破壊的な行動を伴う状態であり、発達障害を持つ人々に見られることが多いです。

障害支援区分は障害のある方が必要とする支援の度合いを示す公的な指標で、非該当から区分6までの6段階に分かれています。数字が大きいほど必要な支援の度合いが高いことを意味します。あおばの杜の平均障害支援区分は5.7と非常に高く、重度の方が多く利用されています。さらに高齢化によって介護度が高くなっており、強度行動障害の方も6割程度いるとのことでした。

生活介護は主に日中に行われるサービスで、常に介護を必要とする障害者に対して生活支援を行うものです。具体的には入浴、排泄、食事などの日常生活の介助や創作的活動、生産活動の機会を提供し、身体機能や生活能力の向上を図るための支援が含まれます。対象者は重度の身体障害や知的障害を持つ方々で、日常生活において常に支援が必要な方々です。目的は利用者の自立を促進し生活の質を向上させることです。

施設入所支援は障害者支援施設に入所している障害のある方に対し、主に夜間や日中に日常生活上の支援を提供するものです。サービス内容は居住の場の提供、入浴、排泄、食事などの介助、生活に関する相談や助言、健康管理等となっています。対象者は障害支援区分が

4 以上の方で、原則として 18 歳以上の障害者です。グループホーム（共同生活援助）は障害のある方が地域社会で自立した日常生活を送るための支援を目的としており、一軒家やアパートなどの共同生活住居で世話人や生活支援員による支援を受けながら地域で少人数の共同生活を送ることが目的です。

利用者の平日の日課について説明がありました。施設入所支援とグループホームの利用者は 6 時に起床し、着替えをして 7 時 30 分から朝食を摂ります。9 時になると日中サービスに移動し、10 時 30 分から朝礼が始まり、午前中の活動が開始されます。活動内容は歩行、運動、ドライブ、創作活動、調理実習、作業、買い物支援などです。11 時 30 分から昼食を摂り、13 時頃から入浴も開始されます。15 時頃に送迎バスが出発し、在宅の利用者は家に帰ります。16 時に活動終了で夜間サービスに戻り、17 時 30 分に夕食、21 時頃に就寝という生活です。休日は基本的に施設内で過ごし、グループホームの利用者は移動支援等を使って外出することもあります。

地域に向けての行事として「あおば祭り」があるが、新型コロナの影響で令和 2 年度から地域の方を呼んでの開催はできていない状況です。利用者が参加した地域行事としては、やまもまつり、上八万夏まつり、上八万の運動会、地域清掃、森珈琲店の作品展示、法人の秋祭り、上八万小学校との交流会（10 年ぶりに再開）、総合防災訓練、明善文化祭、文化の森コンサートなどがあります。

利用者の意向調査として、自治会でミニお祭りやクリスマス会の献立メニューなどを決めています。誕生日イベント時には本人の嗜好を取り入れた給食を提供し、一人一人の希望する食事メニューを聞き取り、希望する食事とデザートを提供しています。行事食やイベントで食べたいものをアンケートで調査し、その結果を参考にイベント内容に組み込んでいます。また、利用者本人や家族を対象に嗜好調査を行い、施設での食事の様子や家庭での食事の工夫を記入してもらい、献立作成や提供方法の参考にしています。

令和 7 年度は虐待に該当する事項はありませんでした。ヒヤリハットは 28 件報告されており、主な内容は誤食の危険、興奮状態での危険行動、転倒の危険、行方不明の危険などです。事故は 23 件あり、死亡事故 1 件、離脱事故 1 件、交通事故 4 件、怪我 2 件、誤薬 2 件、金銭管理、その他 11 件となっています。5 月 20 日には薬の投与ミスがあり、かかりつけ医に連絡して対応方法を確認し、家族にも状況を説明しました。6 月 9 日には送迎中に追突事故があり、利用者を病院で診察してもらいましたが異常はありませんでした。7 月 16 日には無断外出があり、マニュアルを作成して家族に報告・謝罪しました。

現在の職員数は 100 名で、業務内容は利用者の介護、食事、運動、創作活動、レクリエーション、施設外活動などのサポート、パソコン入力業務、受け入れ準備、掃除、片付け、健康管理、介護の支援、意思決定支援などです。職員の配置は利用者数に対して適切な人数を時間単位で毎日細かく決めており、これにより事故防止や急な職員の休みにも対応できるようにしています。

感染症の BCP と防災の BCP を作成しています。感染症の BCP については、感染症委員会を 6 ヶ月に 1 回以上（ほぼ毎月）開催し、最新情報や BCP、ゾーニングの見直しを行っています。防護服等の発症時に必要な衛生用品の備蓄管理や、定期的な防護服の着脱トレー

ニングも実施しています。防災の BCP については、防災避難訓練計画に基づき毎月 1 回程度避難訓練を実施し、BCP の作成・策定と計画の実施、実施後の見直しを行っています。

意思決定支援は、利用者のニーズを正確に把握するための取り組みです。利用者の意思を職員が汲み取り、望んでいる生活をかなえていくために行っています。人間誰しも自分が望んでいることが叶うと生活が充実し満足できると考え、逆に望んでいることが職員に伝わらなかつたり、かなわない場合は、利用者からの訴えや問題行動が増えることに繋がる可能性があります。意思決定支援の情報は個別支援計画の本人の要望にも反映されています。職員は利用者に関わる際に本人の意思をキャッチすることを心に留めて支援し、得られた情報は記録して共有しています。

経営状況について報告がありました。事業収入は 4 億 7,646 万 6,419 円、事業活動支出は 4 億 1,160 万 4,029 円となっています。設備整備として特殊浴槽の改修や LED 照明の導入、パソコン関係の更新などがあり、前年度はマイナス 781 万 8,649 円でした。その他の活動による収支として、施設整備等の積立資産が約 4,500 万円あります。令和 6 年度の総収入は 4 億 8,475 万 6,712 円、総支出は 4 億 7,559 万 4,366 円、当年度の繰越金は 916 万 2,346 円、前年度の繰越金 2 億 5,000 万円と合わせて、来年度 1 億 6,637 万 4,942 円繰り越すこととなりました。

苦情処理について報告がありました。5 月に担当職員の変更に関する事前相談の不足や、職員の運転中の携帯電話使用に関する苦情がありました。また、利用者の背中のおざに関する疑問や、自動車税種別割の減免申請書類の説明方法に関する苦情もありました。これらの苦情に対しては謝罪や説明を行い、対応しています。

会議の最後に参加者から意見や質問がありました。保護者の方から、廊下やすべての所の掃除が行き届いており綺麗で、以前は保護者が協力日に来て掃除をしていたが、最近プロの人にしてもらっているようでほとんど臭いもなく清潔であった。お風呂も毎日入れているため、匂わないのかもしれない。毎日お風呂に入れることを続けてほしい。非常にうれしい。他施設では入浴は毎日しているのかと質問がありました。職員より、他施設の入浴のことはあまり聞いたことがないが、毎日入浴している所は少ないと思われる。あおぼの「売り」として続けていきたいと返答しています。福祉関係者の方より、夏場は、月水金が入浴で、残りがシャワー浴という所もあるとのことと意見がありました。地域関係者の方から、このような会を開いてもらい説明を受け、理解が深まった。小学校も 10 年ぶりに体験学習をしたと聞き驚いた。先日、福祉体験を受け入れさせていただき、生徒がその事を教室で発表してくれていた。子供たちにも良い体験だったと思う。障がい者の方は、部分的に見てイメージが悪く見られているかもしれないが、色々な所に出て活動して行って欲しいと思う。地域参加で上八万町民運動会も参加してくれており、みなさんがくるのを楽しみにしているので今後も参加してほしい。学校でも、地震が起きた時に備え見回りがあるが、棚の上に物を置いておくと危ないため気を付けておいてほしいと意見があった。地域関係者の方から、入所を見学して、その人の特徴にあった食事時間や食事形態等変えているので、感心した。ガラスを割ったりして危険と隣り合わせで職員も大変であるとわかった。地域関係者の方から、人間は 100 人生まれたら 3 人は神様のいたずらがある。職員の皆さんが頑張っているの

がひしひしと伝わってきました。これからも頑張って欲しいと思うと述べられました。